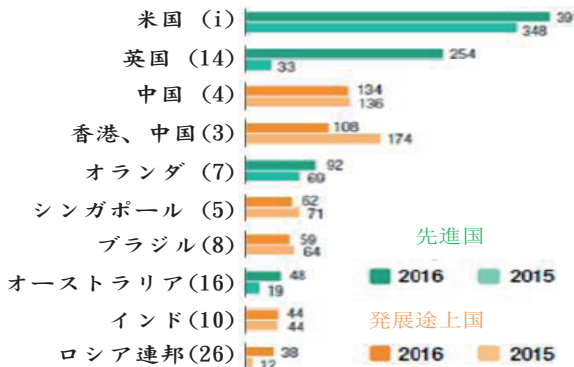


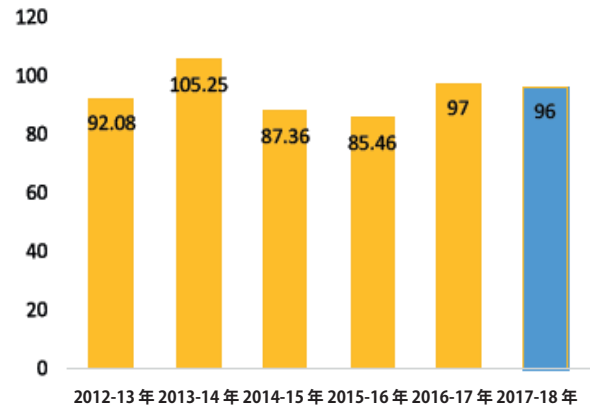
2016年のFDI(海外直接投資)流入額トップ10ホスト国(10億米ドル)+(x=2015年のランキング)



出典:UNCTAD の出版物- 2017 年世界投資報告

注:本報告では4月と5月の両月の最新情報と顕著な出来事をまとめています。

インドにおける実際のモンスーン降雨(平均期間の%)



(2017-18 年は、最初の降雨予測を示す)

出典:インド気象局 (IMD)

### 1. 2017 年度の GDP 成長率は紙幣廃止を反映して、2016 年度の 8.0% からやや低下し 7.1% を記録

2017 年度の前年比成長率は鈍化したものの、健全な 7.1% の成長率を示した。紙幣廃止の影響は、製造業、不動産業、建設業で感じられた。農業生産は依然堅調である。消費支出が成長を支え続け、特に政府支出の増加が記録された。今後、2018 年度の経済成長は政策主導により支えられ、累積消費需要と投資サイクルの回復から牽引力を得るはずである。

### 2. 世界的な経済予測機関はインドをポジティブに捉えており、成長予測を上向きに訂正

世界銀行は半年ごとのインド経済発展最新情報で、インドの経済成長率は紙幣廃止と長期化した投資回復の影響により、2018 年度には加速するものと予想している。ムーディーズは、インド経済が 2018 年度に 7.5%、2019 年度に 7.7% まで成長が加速すると見込んでいる。IMF はまた、市場効率の改善にとって長期間持続している構造的な障害を取り除くことを勧告しているが、紙幣廃止により生じた混乱の後、インドの経済成長率は 2018 年度に 7.2%、2019 年度に 7.7% へ回復するものと予想している。アジア開発銀行は、インドの経済成長率が 2018 年度中に 7.4% まで改善し、次の年度でさらに 7.6% まで上昇すると予想している。これらの予測により、インドは依然新興諸国の中で傑出している。

### 3. インド気象局によると良好なモンスーンが予測される

IMD(インド気象局)からの最初のモンスーン予測は、良好で平均期間の 96% となりそうであり、特に旱魃に苦しむ州(カルナータカ州とタミル・ナードゥ州)ではインドの農村需要と農業経済を大幅に上昇させるであろう。良好なモンスーンは、インフレ率を緩和する。

### 4. インドの 4 月の消費者物価指数 (CPI) は、2.99% に弱まり、金利の不安が和らぐ

コンセンサス予想を下回った CPI(消費者物価指数)は、食品価格の低下と下降気味の世界的な燃料価格によって牽引された。月間 WPI(卸売物価指数)に基づく年間インフレ率は、2017 年 3 月の 5.29% に対し 2017 年 4 月には 3.85% を示した。これにより継続的な金融緩和政策を支持している。

### 5. 2017 年度のインドの FDI は最高を記録し、メイク・イン・インド・キャンペーンが前進

公式データ(商工省)によると、インドは 2017 年度に 435 億米ドルで過去最高の FDI を記録したが、前年比成長率は前年の 29% と 2015 年度の 27% から 9% まで下落した。21 部門での FDI(海外直接投資)体制の自由化とほぼ 3 年前に始まった「メイク・イン・インド」キャンペーンの投入を含めた政府による改革政策は重要な牽引力となっている。UNCTAD によると、インドは 2016 年の世界の最も魅力的な FDI 投資先の中で第 9 位にランクし、1 ランク上昇した。

### 6. インド政府は不良資産処理を加速するため銀行業規制法を改正

5 月 5 日に、政府はインド準備銀行 (RBI) がほぼ 1500 億米ドル(10 兆ルピー)のインド銀行システムの不良資産処理で、さらに強い権限を行使することを認める法令の改正を通知した。政府は RBI(インド準備銀行)が不履行者に対し破産および倒産法を発動することを承認することもできる。これはより透明性を確保した、迅速な破産処理を達成する試みに向けた積極的なステップである。

この報告書は株式やユニットのオファーの性質を持つものではなく、意見や広告の提案や提示でもありません。これは何らかの証券の利率や価格の起こり得る将来の動きに関する何らかの予測や表示の性質を持つものではありません。上記の報告書の内容は、特定の目的、経済状態、そしてこの報告書を受け取る特定の人の特定のニーズを顧みず、情報提供のみを目的としています。何らかの証券や有価証券への投資と本文書に言及されている投資戦略の妥当性に関しては、アドバイスを求めてください。